暮らしを拓く

千葉県障害者グループホーム等支援事業　連絡協議会　広報紙

56
July
2025

軽度障害者の生きづらさ

何でもできそうに見えているが、実は社会の中で困り事を抱えている軽度知的、発達障害者。そんな方々の恋愛、結婚、出産、育児に向き合う中で得られた<関係支援>とは何か？お話を聞いて来ました。

左から理事長の牧野さん、副理事長・所長の川瀬さん。

巻頭（かんとう）インタビュー

特定非営利活動法人ＵＣＨＩ（うち）
グループホームうち

理事長　**牧野（まきの）　賢一（けんいち）**

副理事長・所長　**川瀬（かわせ）　悦（えつ）**

所在地：神奈川県茅ヶ崎市香川４－４０－５
ＴＥＬ：０４６７－３８－８７２７

軽度障害者の生きにくさに着目したＧＨ

昨今ニュースに取り上げられることが増えてきた、マッチングアプリでのトラブルやオレオレ詐欺などの特殊詐欺に関わる方の中に、判断能力が低めな知的障害の方や発達障害の方が含まれており、それらの方の支援に関わることがあります。

何でもできそうに見え「はい、わかりました。」実は理解できていないのにそう答えてしまいがちで《生きにくさ》を抱えた軽度の障害をお持ちの方のためのグループホーム（以下ＧＨ）を茅ヶ崎市で運営されている、特定非営利活動法人ＵＣＨＩさんを訪問し、お話をお伺いさせていただきました。

ＧＨうちが出来るまで

代表の牧野氏は、大学生時代に脳性麻痺がある方の支援のお手伝いをする機会があり、「また来ますね」と言った牧野氏を待ってくれている利用者さんとのかかわりから障害のある方の支援が始まりました。大学卒業後神奈川県社会福祉協議会に就職。地域福祉への転換期を迎える中、社会福祉法人が新設する知的障害者通所施設に転職し、主に行動障害のある方を担当、その中で軽度の方たちに助けられ、当時は制度になかった就労支援の必要性を提案し、就労支援の担当となり軽度の人たちを就労につなげましたが、就労継続のためには生活支援が必要だと考え、グループホームの設置を提案し、〈仮住まい〉の位置づけで就労援助付グループホーム『下宿屋』の責任者になられました。

企業で働くＡさんについて社長から「仕事はしっかり出来ているのだけれど周囲とのトラブルが多くて・・・生活を支えてもらえないだろうか・・・」などの相談を受けることが多かったと。潜在的に知的障害をお持ちの方は人口の２％くらいおり、うち８５％が軽度知的障害。その中で顕在化されているのは１０％程度。残りの方々は障害福祉につながることもなく《生きにくさ》を抱えて生活をされています。Ａさんのような状況で、仕事ができているから周囲とのトラブルは仕方ないと誰も介入しなかった場合、Ａさんはトラブルを抱えたまま解決方法を見つけることもできず、仕事へ行くことも難しくなる・・こともあると考えらます。牧野氏へ相談を持ち掛けた社長が、Ａさんの生活全般を見直す必要があるのではないかと考えたことにより、仕事ができているからといって社会参加ができている訳ではなく、仕事以外に同僚や仲間とのかかわりが必須となる中で、関係性を構築できないことを牧野氏は〈関係障害〉と位置づけ、その関係性を良好にするために関わることを〈関係支援〉と提唱しています。

２００２年、児童養護施設を退所した１８歳を複数受け入れ、そのうち、２名がすでに恋人がおり、それぞれのカップルの妊娠・出産を支えることになりました。２０１４年、牧野氏は『下宿屋』時代から共に利用者さんを支えてきた川瀬氏と

神奈川県の閑静な住宅街に建っています。大きなテーブルで手作りの食事を楽しめます。

うちで支援している方のお子さんです。中には成人された方もいらっしゃいます。

バランスの取れた食事やお正月にはおせち料理が出る等、季節の行事を大切にされています。

『うち』を立ち上げることとなり、『下宿屋』から引き続き利用を希望した利用者の方と、《生きにくさ》を支えるグループホーム『うち』が、軽度知的障害者・発達障害者の支援に特化した取り組みの始まりとなりました。

結婚、妊娠、出産

２０２２年、北海道の社会福祉法人が運営するＧＨで、同居や結婚を希望する利用者さんに、ご本人の意思に反して不妊処置を条件としていたという報道がありました。実際に、同居や結婚を望む８組の利用者さんが不妊処置を受けており、ご本人の意思に反していたかどうかは明らかになっていませんが、子どもを産むことを選択した際には、ＧＨでの支援を打ち切られるという、他に選択肢がない中でのご本人の意思決定の過程に問題がなかったのか、課題は山積みでした。

『うち』では現在２組の親子がＧＨでの生活を送っています。妊娠が判明した際、川瀬氏が中心となり、子どもを産み育てるということや命の尊さについてご本人ととことん話し合いを行います。関係者のほとんどが堕胎を進める中で、なぜ生みたいのか・どうやって育てていくのかをご本人が選択できる状況を作り、時には堕胎を選ぶ方もいらっしゃるそうです。産むことを選んだ利用者さんに対しては、親として先輩の職員が、生まれてすぐは３時間おきにミルクを上げなければいけないことや夜泣きをして大変なことなど、実際の子育てについてのことを伝えたり、出産後にお部屋を訪問し助言をしています。しかし子育てのお手伝いをすることはないといいます。何故なら「子どもは自分で育てる」と覚悟をもって出産しているからです。

子どもの成長について行政などから「『うち』さんに見てもらえているから安心です」と言われることがあるそうです。そんな時には「お子さんは入居者さんではありません。子育ては親が頑張っています。お子さんのことが心配ならしっかりと関わってください」と伝えるそうです。

子育て家族の住居である賃貸住宅の建物には他の利用者ホームの住居はなく、独立した住環境であり、本体での食事は週に２回。それ以外は自立も視野に入れ、住居で自炊をされています。オムツやミルクなどお子さんにかかる費用はもちろんご本人が負担されます。それでも体調不良時など、頼れる職員がそばにいることも『うち』の強みです。そして多くの支援者にかかわりや関心を持っていただき、地域・社会の中で〈関係支援〉として解決していくことが、障害のある方のみならずすべての人にとっても、その人らしく暮らしやすい地域・社会づくりにつながると考え、社会的事業を展開されています。

ＵＣＨＩの想い

「自分なりに幸せに生きていく中で、結婚・出産を選択する権利は、誰も侵すことができない、人間としての当然の権利。」と牧野氏。子どもをもつかどうか決めるのは、まさに〈基本的人権〉。国や社会が〈不幸になる〉と決めつけることは絶対に間違っています。少しのお手伝いがあればできることが増えたり、想像できないことを実感できることで自ら望む将来を選択できたり、他の誰かではなく自分で決めたことで失敗したとしても自信につながったり、疲弊したときに寄り添ってくれる人がいてくれたり、ＵＣＨＩでは職員全体で統一した支援の提供が行われていました。

利用者さんの人生は、関わる支援者によって良くも悪くもなってしまいます。利用者さんの立場に立って支援ができるＧＨが増えることを切に願います。

「利用者さんとともに両輪になり生活を送っていただく」と牧野氏。帰りの茅ヶ崎駅の発着メロディー《希望の轍》が胸に刺さる取材となりました。

成人のお祝いをしたり、旅行にも出かけています。

「ＵＣＨＩ」について
もっと知りたい方はこちら⇒

特定非営利活動法人ＵＣＨＩ
ホームページはこちら⇒

みてみて！マイホーム

社会福祉法人野田みどり会
ハーモニーホーム（日中サービス支援型）
障がい者支援事業部長　白石（しらいし）　直美（なおみ）
管理者・サビ管　萩野（はぎの）　美穂（みほ）
住所：千葉県野田市鶴奉８４－１６
電話：０４－７１９０－５１８３
ＨＰ：http://nodamidorikai.jp

ハーモニーホームについて

今回お話を伺った部長の白石直美さん(右)と管理者・サビ管の萩野美穂(左)さん

社会福祉法人野田みどり会が運営するハーモニーホームは、令和５年１０月に開設。野田みどり会の障がい福祉サービスをご利用されている方のご家族様より「親が高齢になってきて本人の介護負担に限界を感じ始めている、親亡き後の我が子の生活に不安を抱えている」等の相談が増えてきた現状を踏まえ設立されました。重度の身体障害、知的障害、重複障害の方々が入居され、支援区分５から６の方が多くいらっしゃいます。

ハーモニーホームの外観と共有スペース。綺麗で明るいホームです。

グループホームに介護機器の導入を

当法人は、障がい者支援と高齢者支援の２本柱で運営しており、互いの事業のノウハウや知識が活かされています。また、介護機器の導入を積極的に行っています。通所先で使用している床走行リフトをグループホームにも導入し、スタッフの負担を補いながら利用者様の生活を支えています。その他、高齢者支援施設で使用している眠りスキャンを設置することで、睡眠、覚醒状態、心拍、呼吸数、離床検知等をモニターで確認し、夜間の状態把握と支援に活用しています。介護機器の利用にあたっては利用者様の尊厳に最大限配慮しており、それらがその方にとってマイナスのものではなくプラスのものになるように工夫しております。

重度の障害をお持ちの方の支援で見えてきた課題

そんなハーモニーホームもいくつかの課題があります。医療連携体制や通院をどうするか、支援技術の習得について等々。支援技術の習得についての課題は、法人内の２事業所の職員が支援員として勤務することで、普段は支援していない利用者様の支援を行うことで生じる「適切な支援は何か？」ということです。行動障害の方への支援の難しさ、身体的に重度な方の支援技術の習得など、両方の難しさを感じております。障害種別の垣根を越えて幅広く支援技術を学ばなければなりません。

介護が必要な方でも大丈夫なリフトやお風呂。眠りＳＣＡＮという最新機器も導入。

高齢者、身体障害、知的障害の垣根を越えた支援技術の習得

職員の支援技術習得の課題を感じる一方で、法人内には重度身体障害の方が通所する事業所、知的障害の方が通所する事業所があり、職員同士が情報共有できるという強みがあります。支援についての情報伝達に力を入れており、通所先からホームまで切れ目なく安定した生活基盤をサービスの面から提供できるようにしています。

どのような方でも過ごしやすいように広々した造りになっています。

「すべての人を幸せに」

法人理念は「すべての人を幸せに」です。利用者様はもちろんのこと、そのご家族様や地域の方々、そして職員を含めたすべての人が幸せなハーモニーを奏でる、そんなグループホームを目指しています。

社会福祉法人野田みどり会のホームページはこちら⇒

野田みどり会の活動をもっと知りたい方はこちら

起努逢楽（きどあいらく）

各圏域を奔走するGH等支援ワーカーを紹介するコーナー

海匝香取圏域	根岸（ねぎし）	成明（なりあき）
安房圏域	石嵜（いしざき）	雅俊（まさとし）
山武圏域	近藤（こんどう）	秀登（ひでと）

社会福祉法人ロザリオの聖母会 海匝ネットワーク　根岸　成明

今年度より障害者グループホーム等支援ワーカーとして海匝地域と香取圏域を兼務させていただきます根岸です。今までは住宅の現場監理を7年と障害者支援施設の支援員を20年やってきました。業種は違いますが物を築き上げていく楽しさと日々利用者と関わる楽しさに接してきました。この経験が活きるかどうかはわかりませんがワーカー業務が出来ることにすごくワクワクしています。他圏域のワーカー達はとても面白くて熱い思いを持った方々ばかりです。また、協力体制も整っていてとても頼りがいがある方々でもあります。そのような仲間に支えられ毎日感謝の日々です。

地域はいろいろな方の支えで成り立っていると思います。私たちも各関係機関と連携して地域の一員となり与えられた役割を果たしていきたいと思います。また、日々の感謝を忘れることなく頑張ってまいりますのでよろしくお願い致します。

社会福祉法人　太陽会　しあわせの里　石嵜　雅俊

今年度より安房圏域グループホーム支援ワーカーとなりました、石嵜雅俊です。入職当初は障害者支援施設で支援員として勤務し、日々関わらせてもらっていました。その後、異動により今まで高齢施設で勤務しておりましたが、高齢者の多様なニーズを理解する貴重な機会でした。今回、再び障害分野に関わる機会をいただきました。地域で障害のある方でも安心して暮らせる環境づくりに携わらせてもらいながら、一日も早く皆様のお役に立てるように、誠心誠意努めてまいります。どうぞよろしくお願いいたします。

特定活動法人　リンク　さんネット　近藤　秀登

新人というには薹（とう）が立ち過ぎでは？と恐縮しております、山武地域の近藤と申します。中核支援センターさんネットとの兼務ですが、これまで障害福祉・主として知的分野に身を置いて大規模入所施設（授産・児童・成人更生）から通勤寮を経て地域生活支援や基幹相談支援センターでの総合相談と様々、経験させていただきました。

私自身、内房～千葉市、そして山武へと職場が変遷し中核支援センターに初めて勤めることになりました。中核支援センターでは、障害の枠に留まらず視野を広げて地域づくりに関わることが出来れば、と考え、グループホーム等支援ワーカーは今や地域生活支援の要となった障害者グループホームの水先案内人の役割と認識しています。

双方とも千葉県独自のユニークな制度として歴史を積み重ねて来たと感じていますが、期待される役割や業務における比率の変化も時代の流れとともにあるのではないかと感じています。年若い先輩師匠に付いて学びながら、先ずは地域を知ることと考えています。よろしくお願いいたします。

編集後記（へんしゅうこうき）

「利用者と向き合う」支援者誰しもが、この言葉を心に置きながら、日々の支援に勤しんでいるはずです。今回の取材を通して「私は利用者と向き合えているのか？」と何度も自問自答しました。

答えのない対人援助の仕事だからこそ、試行錯誤しながらも「全力で真剣に向き合う」支援者の皆様に出会い、ピンッと背筋が伸びる思いをしました。

今号の題字（こんごうだいじ）

株式会社サンファーレ
サンホーム菊間　高橋典継さん

市原市にあるグループホームで暮らしています。食材の買い出しから調理まで職員さんがやってくれていて、食べる楽しみを満喫しています。

GH等支援事業キャラクター ホームちゃん　GH等支援事業のHP　元ツイッター　現Xのページ

千葉県障害者グループホーム等支援事業連絡協議会
暮らしを拓く 56号

発行／千葉県障害者グループホーム等支援事業連絡協議会事務局
TEL／0478-79-6919
MAIL／r-aoya@rosario.jp
発行日／令和7年（2025年）7月26日
編集／連絡協議会広報班